

2018年(第13回)積水ハウスマッチングプログラム 選定後講評

積水ハウスマッチングプログラムの会
理事長 大崎 彰



「積水ハウスマッチングプログラム」は、積水ハウス株式会社及びその関係会社のCSRの一環として、グループ会社の役員及び従業員(2018年3月現在、4440名)からの寄付金と、その同額(積水ハウス株式会社からの拠出金)を合わせたファンドを原資として、次の3つのテーマについての活動を助成するプログラムです。

【こども基金】こどもたちの健全な育成に関わる活動／【環境基金】地球環境や生態系の保全に配慮した活動
【住・コミュニティ基金】地域に根差した豊かな住環境の創造を目的に、まちづくりや地域コミュニティに関わる活動

このたび、全国から126件の応募をいただき、ありがとうございました。選定委員である従業員代表の理事一同、当プログラムへの関心と期待の高さに応えるべく慎重に選考を行いました。

以下、2018年(第13回)助成申請の概況、選考プロセスや選考結果を報告します。

■助成申請の概況

申請は、東京都が30、大阪府18、福岡県7、神奈川県・宮城県ともに6、愛知県・兵庫県・京都府ともに5など、29都道府県より応募があり、全国からの関心の高さを伺うことができました。内訳は、こども基金76件(前年比7増)、環境基金33件(前年比2減)、住・コミュニティ基金には17件(前年比11減)となっています。

■選考プロセスと審査のポイント

一次審査は、理事長、社外アドバイザー、事務局の三者にて基礎的要件(締切の厳守、記述網羅性、基礎要件の確認、助成趣旨の合致の確認)の整理作業を行い、書類審査を実施。審議の結果、37件(こども基金20件、環境基金12件、住・コミュニティ基金5件)が一次審査を通過しました。

その後、会員アンケート、団体への面談・ヒアリング等を実施し、積水ハウスマッチングプログラム理事会による最終選考(二次審査)を実施。理事会では団体の実績、継続性、および財務評価などから【組織の信頼性】を精査、申請プロジェクトの内容について「公益・波及性／独自性／必要・緊急性／共感性／参加・協働性／実現性／費用の合理性／発展性」等の項目に基づき評定しました。加えて、地域バランスや新規プロジェクト、継続支援の必要性などを加味し、社外アドバイザーの情報提供を交えながら、協議を進めました。

その結果、2018年(第13回)助成は、プロジェクト助成(助成金額28万円～150万円)に28件(こども基金15件、環境基金11件、住・コミュニティ基金2件)、基盤助成(上限20万円)に1件(環境基金1件)の助成を決定いたしました。そのうち、東日本大震災などの被災地域からのプロジェクトについては、中長期支援の必要性を鑑み6件に助成を決定しております。

■全体講評

こども基金をみると、海外活動(5件)では、こどもたちの生活改善、教育環境を向上するプロジェクトが選定され、国内では継続事業(6件)への助成が多く、様々な社会課題に直面するこどもへの支援などが選定されました。環境基金も、継続事業(8件)への助成が多く、これまでの実績を評価し、イベント開催や環境保全といった活動に継続助成する結果になりました。住・コミュニティ基金では、コミュニティガーデンの発展事業、空き家を活用したマッチングといったプロジェクトが選定されました。

応募全体の傾向は、国内では障害、貧困、子育て支援などこどもを取り巻く社会的課題を解決する活動が多く見受けられました。海外での活動はこどもたちの教育や地域のコミュニティづくりなどにおいて必要性の高い申請が多く、国内、海外問わず喫緊の社会問題に対峙する団体から助成申請が集まっています。

「こども」「環境」「住・コミュニティ」に関する社会問題に直面する中、当プログラムを通じて、共に社会的課題の解決にチャレンジしていただきたいと思います。

引き続き、2019年度(第14回)助成へも多数の応募をお待ちしております。

以上